

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100442		
法人名	株式会社アルカディア		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ハピユシ		
所在地	沖縄県那覇市松尾2丁目14番地45号		
自己評価作成日	平成27年3月24日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100442-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で共同生活を営むことを通じて、入居者の尊厳を重視し、その有する能力に応じた日常生活を送ることにより、心身の状況を穏やかにし認知症の進行を遅らせるとともに、また、家庭的な生活を送るなかでご本人が生きがいを持てるよう、必要以上の介護はせずご本人の持っている能力が引き出せるよう支援し、ゆったりとしたスペースの中で自分のペースで生活できるように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月1回のミーティング時に内部勉強会を開催して、介護技術や認知症サポーター養成研修等が実施されている。又、外部研修会(認知症介護実践研修等)に参加した職員より報告が行われている。那覇市からの助成事業(介護職員の育成事業)に参加して人材育成に力を入れている。家族の面会も毎日や仕事帰りの夕方の方が多く、病院受診や入浴協力が得られ信頼関係が構築されている。家族としても法人経営者が主治医となっており、安心感がある。自立支援に向けては午前と午後の健康体操で下肢筋力強化に取り組んでいる。居室作りも観賞用植物や読書ができる機の配置等その人らしい環境整備が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 27年4月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の操業目的を基に職員と話し合い、ハピユシの理念を作り、支援している。	職員からアンケートを取り、管理者と話し合い決めている。管理者は職員のケア場面(排泄や外出等)で対応が不十分の場合に声かけし理念を確認するように話している。理念に基づいて、入居者の生活場面から観察してそれぞれの役割を持つ事(洗濯物たたみや食事の盛付等)を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの一室(地域交流室)を地域のボランティア会に開放して交流を深めている。	地域へ同複合施設内を三味線や琉舞の練習等に提供している。自治会へ加入していないが、地区の避難訓練に職員が参加している。複合施設内1階のデイサービスにきた保育園との交流に参加している。日常的に地域住民と交流する機会は少ない。	地域密着型サービス事業所として、地域の行事や活動の情報を集め、それらに参加する等日常的な交流を積極的に取り組んでいく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室の使用時などに少しずつ認知症について話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で生活状況等を報告し委員の意見を取り入れながら支援している。	年6回開催されている。利用者が得意な歌を披露したり、ホームでの生活状況も報告している。委員からは職員の勉強会で取り上げてほしい内容等の要望が出ている。ホームからは運営や事故、ヒヤリハット等の報告が行われている。議事録は作成されているが、委員個人で記録している理由から配布はしていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、助言指導を受け、又、色々な相談にのってもらっている。	管理者がケアマネジャーと兼務しており、月2回情報開示請求や生活保護手続き等で訪問している。那覇市グループホーム連絡会に加入して市担当者と情報交換を行っている。ボランティアのポイント制についての説明を受けるが、現在は手続きは行っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	多くの勉強する機会を作り高齢者擁護、身体拘束について話し合うようにしている。	昨年の外部評価の結果をもとに内部で身体拘束についての勉強会を開催している。家族へは利用開始時や必要時に説明をしている。身体拘束は行っていないが、現在、夜間のみ3名が転倒防止の為ベッド下にセンサーを設置している。家族へは口頭で説明し同意を得ているが、文書は作成していない。帰宅願望の強い利用者がホームより遠方へ出てしまうことがあり、エレベーターのボタンにカバーがされている。	

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で高齢者虐待防止法について勉強し色々な場面を想定し接遇の仕方、言葉使いなど虐待と取られやすい場合などを話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行ったりホームの会議に勉強会を行い、又、関連事業所の勉強会に参加する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、疑問に答え納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表の意見、要望や面会時に意見や要望を聞き取り入れる様になっています。	利用者からは普段の会話から意見や要望を聞き「遠方へ外出に行きたい」等があり、年間の外出計画に組み入れている。家族の面会は毎日や仕事帰り等が多く、その際に聞いている。例えば「居室の食べこぼしが気になるので、こまめに掃除をお願いしたい」等の要望に対し、毎日モップがけと掃除機をかける事を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特には設けていませんがミーティングや普段の話し合いの中で意見や提案を聞き、良いものは取り入れています。	職員ミーティングや勉強会は月1回持ち、意見や要望を聞いている。例えば、年間行事(花見や敬老会等)の提案があり、実施に向けて職員間で協力体制や勤務調整等を行い、反映されている。外部研修会参加についても職員の希望が反映され、職員の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のキャリアなどを考慮しやりがいの持てるような研修に行ってもらっています。処遇面は今、会社で再検討、見直しを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験などをかんがえ各自に向く研修への参加を促し、又、月に1回は全員で同じテーマで勉強会を行っている。自発的に自分から研修に行く方もいます。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加や時々ですがガウディ会(認知症介護勉強会)に参加していますが他ホームとの交流はまだありません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を聞き、関わりを多く持ち、話しやすい様にし、安心感を持って頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時、契約時を通じ要望、希望を良く聞き、面会時に入居者の生活ぶりを伝えながら家族との関係を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と良く話し合い、利用できるサービス、必要なサービスを見極めて支援する様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事、得意な事を職員と一緒にして頂き、押し付けにならない様に家族的な雰囲気の下、支援していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活状況、健康状態などを伝え、本人の様子を知ってもらい、又、精神的安定を図るために面会の依頼等をし協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親戚の方の面会は時々あるが入居者から出かける事はない。ただ、通い慣れた国際通りなどへは散歩を兼ね時々、行っています。	6階に併設する有料老人ホームに入居している友人達と共に週2回施設内のカラオケクラブに参加している。又、ホームと同じ階にある地域交流室を利用している知人の三味線の演奏や琉舞等を見学して、会話を楽しんでいる。自宅周辺を散歩しながら、「ここに住んでいた家」と話してくれる等入居者の思い出の場所に行けるように支援している。	

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を掴み気の合う者同士で交流が楽しく出来るような環境を作ったり、全員で生きがい活動を行う時などにADL等を考えながら支え合えるような場面が出来る様に支援します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族の方に運営推進会議に参加してもらい意見などを頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で関わりを多く持ち、本人の要望等をくみ取るようにしている。又、困難な場合は職員間で話し合いを行っている。	以前の生活情報を参考に野菜作りが好きな入所者と一緒にベランダ菜園をしたり、民謡好きな入居者へ職員が自宅からCDを持参して聞く楽しみの機会を設けている。意思疎通が困難な場合は、人の名前や地名等が出た会話や表情等で職員は思いや意向の把握に努めたり、家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から生活歴を捉えたり、各個人のファイルを見ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の報告、生活記録の確認、バイタル測定や表情、活動行動の観察をし、職員間で情報の共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で家族、入所者、職員の意見、希望要望を聞き又、キャリアの浅い職員の意見も取り入れている。	担当制を導入しており、担当職員がケアマネジャーへ本人の思い(落ち着いて過ごせる環境整備等)や家族(外出を多く等)からの情報を申し送り、職員ミーティングで共有してケアプランに反映させている。モニタリングは2か月に1回実施され、身体状況や定期的な更新時に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送り等で情報を共有し連絡ノートを作り身体状況、気づき等を連絡し合い、実践や介護計画に反映している。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の要望を聞き、身体状況を見ながら関連事業所と連絡を取りながら行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を受けたり、街内まで出かけ皆さんと交流をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応によりかかりつけ医の受診をし、その際にはホームでの日常の様子を家族より報告しています。担当医より医療情報の提供を受けています。	受診は協力医療機関は職員が、専門医受診は家族が対応している。受診時には家族に近況の情報提供を行い結果は口頭で受けている。薬の管理は看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での体調の変化を観察し看護師に報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報の提供を行い、又、退院時には医療情報の提供を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本マニュアルはありますが家族との話し合いはまだ持っていません。	管理者は家族、職員との話し合いは行っていないが、重度化や週末期のその人らしい過ごし方を支援したい意向で、方針案を作成し法人と検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備や初期対応の研修を行っています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を行い、入所者と一緒に避難訓練を行っています。	災害対策について、防火管理の意義や高齢者施設での災害時例で勉強会が実施されている。今年度は事業所地区主催の津波想定避難訓練に職員が2名参加と夜間想定火災避難路等を職員は確認訓練しているが、入居者との訓練は実施していない。	入居者、職員が安全に避難できるよう昼夜想定非難訓練の実施と併設施設や地域住民との協力体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者人権擁護等の勉強会を行い、入所者との接遇について話し合いを行い、対応しています。	支援が必要な時も、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。名前は「さん」での統一し、入居者の失敗等は皆の前で話さない、夜間使用のポータブルトイレはさりげなくセットや片付ける等徹底して努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	じっくりと話を聞き、急がせない雰囲気を作り本人が自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者によっては食事時間を皆さんとズラしたり、入浴を本人の希望時間に行えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みやこだわりなどを尊重し清潔感がある様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者による食事提供のため一緒に作る事は出来ないがおやつを作ったり、食事の盛り付けを行っている。	食事は3食配食で、職員は見守りや休憩時間の確保の為一緒に食事はとっていない。湯飲み等の洗い物に声掛けをすると手伝ってくれる方や、配膳の時間になると自ら盛り付けに参加する入居者がいる。また、月1回の食事は事業所で調理し、出来る方は食事に関する一連の作業に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量の記録をし入居者の要望には管理栄養士と本人を交え相談しています。飲み物の買い置きや家族が入居者の好きな食べ物を持って来ています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて声かけ誘導をしたり、自分で出来る事はしてもらい、出来ない所を介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄間隔のチェックを行い、声かけ誘導を行い失禁を減らす様にしています。又、各自の排泄をもよおした時の行動などを見、トイレ誘導をしています。	排泄パターンを把握して声かけし、さりげなく誘導して日中はトイレで排泄できるよう支援している。排泄が自立している方でも夜間は不安軽減の為ポータブルトイレを使う入居者もいる。午前、午後の健康体操で下肢筋力強化に取り組み自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動をしたり、腹部のマッサージを行ったりして排便を促したり、水分の摂取を促します。排便間隔の長い時は医師に相談し薬の処方を受けます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は一日置きですが本人の希望で毎日、入浴したり、本人の都合の良い時間に入浴して頂いています。	本人の希望を聞いて入浴支援し、好みの石鹸を持参の方や衣類を選択して準備している方もいる。強い拒否はなく職員を変えての対応や新規の入居者の場合は慣れる間、家族に浴室まで誘導の協力してもらうなど不安軽減に繋げている。浴槽も設置されているがシャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間の強要はせずTVを見たり自室で自由に過ごしていただき、夜間の巡視は2時間間隔で行い、大きな音など異変と思われる時は直ぐに訪室しています。日中も眠くなった時はソファーや居室のベットで横になったりします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に間違いの無い様に2名で確認し合って行います。症状の変化があれば様子観察を行いながら看護師、医師に連絡します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の出来る事をして頂き役割(仕事をした)を感じてもらっています。週2回のカラオケを楽しむにしている方もいます。又、気分転換にと散歩に出たり、人により食べ物等を買置き好きな時に飲み食いしています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や町内に散歩に出たり、季節により花見等に行く様にしています。又、家族の協力を得て食事などに出ています。	入居者の希望を聞いてメインストリートや市場、町内にウインドショッピング散歩やドライブに出かけている。病院受診後に家族の協力で買い物や食事に出かける等外出する機会が多くなっている。普段行けない花見、蝶々園、移動美ら海水族館見学の外出は五感刺激の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の方が行っています。1名だけ子使い管理を行っています。職員と一緒に買い物に行かれる際1000円程度を使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	番号の確認などのお手伝などをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によりリビングの飾り付けを変えたり、草花を活着ています。毎日の掃除や室温、湿度のチェックを行い、気持ちよく過ごして頂ける様にしています。	フロアは広くテーブルやソファを配置して入居者がゆったり過ごせるようにしている。壁には季節の飾りや活動写真、作品が飾られ、街中だが不快な音もなく入居者と職員が外を眺めて会話を楽しんでいる姿が見られた。場所を勘違いする方の居室やトイレには名称を書いて認識できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が自然と座る場所が決まり、新聞を読んだり、TVを見たりと思い思いに過ごしています。ソファ等で気に入ったもの同士で談笑などされます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下、使い慣れたテーブル等を居室に運び、又、TV、CDプレイヤー、鑑賞植物を置き心地よい居室作りをしています。	居室にはベッドと収納庫と洗面台が設置されている。週2回のシーツ交換と居室の掃除は職員と共同で行なう方や、本人が行っている。居室の角に宗教的な置き物を飾り時々お祈りしている方もいる。電化製品や寝具、写真等が持ち込まれ、活動作品やお花を飾る等その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きくしたり、居室の名前の表示を分かりやすくしています。		